

---

# 元一般人が転生

ゆゆゆ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

元一般人が転生

### 【Nコード】

N25840

### 【作者名】

ゆゆゆ

### 【あらすじ】

寝てる間に死んでいた。

そんな彼に与えられたのは、転生のチャンス！

しかし彼は、オタクではなく借金があるだけの社会人！

付け焼刃のオタク知識で、転生した彼の二度目の人生は！？

彼は幸せになれるのか！？

## プロローグ（前書き）

初投稿です。

誤字脱字がありましたらすみません。

## プロローグ

自分

ふと目が覚めたら知らない人がいた。

「やつほー、こんにちわぁ。」

はい、こんにちわ。

「突然ですが、アナタは死にましたぁ!!」

死んだ？冗談としては面白くないんですけど？

「いやいや、死んでるんですよ？何でそんなに落ち着いてるんですか？」

スゴイ疲れているときって夢を結構見るんで、夢かと思ってるんです。

「いや、ホントですよ。簡単に言うと即死ってヤツです。具体的には……」

……説明中……

つまり寝ている間に死んだと。

「ええ、そうです。熟睡してたので何も感じずに、アッサリと。」

説明には出てこなかったですけど、弟と妹は無事ですか？

「…弟妹は無事です、傷一つ無く。」

自分が死んだのは理解できましたし弟と妹が無事なのも理解しましたが、貴女は何処の誰ですか？

「今更、ソレですか！？普通、最初に気にしましょうよ、テンプレ的に!!」

てんぷ……？

「ああ、もう、良いですか？私は神です、GODです、仏ではありません!!」

神様？特に信じてるワケじゃありませんよ、宗教的に。

「ああ、別に信仰が必要な神じゃないんで。」  
え、そうなんですか？

「最近の信仰って、大半は神様の名を借りた金儲けにすぎませんしね。」

神様の台詞じゃないと思うんですけど？

「いや、実質そうなんですよ…キ　トの所もブ　ダの所もアツ

ーの所も。」

随分、生々しい話ですね。

「信じるだけならタダなんですけどねえ…って、こんな裏話は置いといて！」

結構、楽しかったですよ？

「いやいやいや、これからのアナタの事を話さなきゃいけないんですから！」

自分の事ですか？

「そうそう、アナタは生きている間に善良な行いをしたので、生まれ変わるときに何かサービスしてあげます。」

いや、何かやったつもりはないですよ？

「そういうのじゃなくて、『イイ子にしてたからご褒美』みたいな感じで。」

ええと、貰えるなら貰いますけど…何を貰えるんですか？

「転生ですね、テンプレ的には『ネギまの世界でORETUEEE E!』とか『ゼロ魔の世界でビバ！貴族!』とか『かがみんは

俺の嫁!』とか!！」

神様、鼻息荒くなってますが…あのー？

「『アイマスでハーレム!』とか…何？決まった？『無限の剣製』とか『使い魔のルーン全部乗せ』とか『文殊』とか『デイケイド』

とかイツとく？」

言ってることが何一つ判らないんですけど…。

「は？」

『ネギま』…って焼き鳥ですか…？

「…えーと『魔法先生ネギま!』って知らない? 漫画とかアニメとかドラマとか。」

「…知らないです。」

「じ、じゃあ『ゼロの使い魔』は? 小説とか何度もアニメ化してるし!」

「……?」

「『GS美神』は!? 『Fate』は!? 『鬼畜王ランス』は!? 『つよきす』は!? 『涼宮ハルヒの憂鬱』は!? 『瀬戸の花嫁』は!? 『スーパーロボット大戦』は!? 『ペルソナ』は!? 『アーマードコア』は!?」

えーと…『GS美神』はTVでやりましたよね? 日曜日とかに。

「アニメ版か!? …『文殊』とか『魔装術』とか知らない?」  
知らないです。

「アニメ版はモニタージユで終わってるしなあ…他には!?」  
他って…初めて聞いた物ばかりなんですけど?

「…えーと忘れてるだけかもしれないね、記憶を覗いても良いかな?」

「いいですよ。」

「あつさりOKしたね?」

神様なら問答無用で見れるでしょうし、許可まで取られたらイヤとはいえませんが。

「ま、そうだねー、書き換えたりとかは絶対しないからね。」  
はい。

「……記憶チエック中……」

「…アナタはホントに日本人か!?」

そんな事言われたのは初めてです。

「世界に名を轟かせるサブカルチャーの国の人なのに…。」

えーと、ゴメンナサイ？

「外国人の方が詳しいってどうよ!？」

いい年した大人がアニメとかってのもどうかと。

「……ちよつとこつちに來なさい。」

あ、あれ？怒ってます？

「怒ってませんよ、全然。」

で、でも……。

「（転生に）迷える子羊を導く（調教）のが神の務めですから。すごいイイ笑顔なんですけど、同じ位不安なんですけど？」

「さあ、こちらに。」

いや、もう引き摺ってますから！離し……っ!!!!!!

「ピザ食べ、コーラ飲め!」

もう、お腹一杯……

「銀河英雄譚、全部ね。」

何話まであるんです、コレ!?

「ガンダム、初代からSEEDまでOVA込みで。」

DVDでこの量!?

「お前のドリルは天を衝くドリルだあつ!!!」

股間を見ながら何言ってるんですか!?

「大番長と、Kannonと、こみパと、恋姫無双、完全18禁

はどれでしょう?」

えーと大番長?

「アナタに突然、12人の妹ができたら?」

父親を警察に連れて行きます。

「Cyclone!!」

Joker!!

「貧乳は希少価値、では巨乳は?」

し、資産価値?

「やらせはせん!やらせはせんぞ!!!」

テーブルの上で何やってんですか!?

「×印のところベタお願い!」

全部塗ったら真っ黒ですよ、コレ。

「!!」

\*\*\*\*\*!?

「!!」

!?

「どうだった?日本の文化は?」

楽しかったですけど、疲れました。

「願いを言え、どんな願いでも好きなだけ叶えてやる。」

神龍が蛇に見えます。

「神だしね、あと『生き返らせる』ってのは無理だから。」

え、そうなんですか?

「アナタの体、炭になってるし、別世界の転生が前提の願いだけですよ?」

えーと……別世界の転生後の願いと。

はい、決まりました!

「お、何かな、何かな?」

『ネギま』……ちゃんと学校に通ってみたいです。

「マトモな理由だね。」

『魔装術』……身を守る物が欲しいです。

「霊力と魔力も付けてあげよう。」

『ドラゴンボールの技、気』……地球人でも強くなれる。

「ヤムチャも十分、超人の域だよね。」

『ヴァッシュの赤いコート』……暑くても着れるステキなコート。

「砂漠で着てるしね、オマケでガンダールヴもあげよう。」

『弟妹が不自由なく暮らせる』……心配だし。

「……………」

「最初の4個はOKだけど、5個目は……兄弟欲しいの？」

いえ、そうじゃなくて……自分が死んだ後の、あの子達が心配で。

「5個目はちよっと……素直にOKとは言えないんだけど。」  
「やっぱり無理ですか。」

「んー、じゃあこうしよう、『良い事をすれば良い事が、悪い事をすれば悪い事が』……つまり報われるってこと。」

あ、はい、それで十分です！

「じゃあ、早速試してみよう！ついでに言うと記憶が戻ったり、能力が付くのは4歳以降だからね。」

どういうことですか？

「……オシメ換えられるの、我慢できる？」  
無理です。

「それに乳児の演技なんて無理でしょう？」  
無理です。

「そういうこと！じゃーねー。」

はい！……ありがとうございます、とても楽しかったです！

「はいはい、いってら〜、色々サービスしておいたからね〜！」

？

！

「もう聞こえなくなっちゃったねー、お幸せにー。」

## プロローグ（後書き）

オタクじゃない社会人が転生ってのを見たくなったので、書いてみました。

プロローグ 神様 (前書き)

送った後の神様です。

## プロローグ 神様

神様

しかし、彼はホントに惨めな人生だったね。  
彼自身は満足してるみたいだけど。

両親が借金を残して蒸発、中卒で就職。

必死で仕事を覚え、深夜のアルバイトも入れる。  
借金は減っているが、完済にはまだ遠く。

弟妹は高校に進学するも、彼から金を無心して遊び惚ける始末。  
家にあまり居ない為、強く言えずそのままズルズルと。

学校から弟妹の飲酒喫煙等で何度も呼出しを受け頭を下げ、警察か  
ら夜遊び等で補導され頭を下げる日々。

彼の死ぬ前日、職場の上司から顔色が悪いとの事で有給を貰い、眠  
っていたところ金を取りに来た弟が煙草の火を消し忘れ、そのまま  
外出。

カーテンに燃え移るものの熟睡していた為、煙を吸って失神。  
燃える建物を見て妹は、見てみぬフリ。  
建物の一部が崩れ、頭を潰され即死。

彼には火事になり建物が崩れた為、死んだと伝えている。  
弟妹の事は何一つ伝えていない。

まあ、約束は約束だ。

弟妹には『良い事をすれば良い事が、悪い事をすれば悪い事が』を  
身をもって味わって貰おう。

プロローグ 神様（後書き）

前話で駄目っぽく見えても、神様ですので。

## 目覚め 手直し(前書き)

主人公の名前が出ていない事に気付いた。

苗字は途中下車して、PM8:00丁度に近くにあった家の両隣から一文字ずつ。

## 目覚め 手直し

埼玉県・さいたま市

気付いたら4歳でした。

それまでの記憶がイマイチですが神様との問答を思い出し納得します。

そして現状を確認。

父、母、自分の3人家族。

父は地質学者、普段は外国か学校にいる、たまにTVに出てる。

母は専業主婦、実家はお金持ちっぽい。

自分は幼児、苗字は『有澤』 名は『裕』。

使っている言語は日本語。

貰った能力って今の時点じゃ使い道が無いですね。

ていうかある程度鍛えないと、使えないポイです。

幼児が手からビーム出したり、空飛んだりしたら恐ろしい。

さて、具体的に何をしましょうか？

思い付かないので、とりあえず年相応にしましょう。

1年後

突然、手と足からビームが出ました、新聞の束が燃えました。

2年後

再開発中の団地で練習、結果として、低空低速で飛べるようになりました、徒歩のほうが速いです。

ビームを撃ち分けられる様になりました、球と波です。

飛びながら撃つと反動で後退します、弾は撃つより投げる方に近いです。

波は最大で壁に焦げ目、弾は瓦礫が割れました。

母方の祖父母から聞いた話によると、父は入婿だそうです。

### 3年後

『気円斬』ができました、直径10cm位です。  
鉄パイプが切れましたが、出すのに10秒掛かります。

### 4年後

両親にバレました、家族会議です。  
母親は一般人ですが、魔法やらが存在しているのは知っているらしいです。

父親は仕事上、外国にいる事が多いので魔法やら気やらを使う連中を知っているそうです。

父親自身も気を使った『探査』は得意との事。  
それでバレたらしいです。

結果としてお咎めなし。

父親から『探査』と『強化』を教わりました。  
二つとも、慣れが肝心だそうです。

### 5年後

『強化』は出来る様になりました。

アスリートの人が可哀想になつてきます。

『探査』も同じく。

半径20m位なら何処にいるか、乱れによって状態の良し悪しも解かる様になりました。

ドラゴンボールの技は惑星破壊クラス以外なら出来るようになりま  
した。

『どどん波』、『繰気弾』、『気円斬』等々。

6年後

『強化』を集中させて刃物状にすることが出来ました、手首から指先10cm位です、『ナイフ』と命名。

『気円斬』複数制御に成功。

ここまでやって気付いた事があります。

『対人には使えない』喰らったら死ねます。

逃げと防御に重点を置くことにします。

7年後

『強化』による全身防御の上昇に成功、スピードも上がりました。平行して『ナイフ』の爆発的な上昇に成功、あれ？

8年後

来年は中学校ですが父親の仕事に母親も行ってしまつたので、全寮制の学校に入れられるそうです。

両親共に「あちこち連れ回すのは可哀想だ」と。

麻帆良学園だそうです、時期的に何時なんでしょうか？

所詮、付け焼刃の知識なので大雑把にしか判らないんですよ。

夕食の後、両親から「話がある。」とのこと。

父親からは「力は自分の為に使いなさい。」

母親からは「タダで力を貸すのはやめなさい、必ず対価を。」

なんでも世の中には「世の為、人の為、正義の為、無償で奉仕しましょう。」という考えの人が多いらしく、両親は私が利用されるのを防ぎたいそうです。

父親は人を助けたは良いものの、それをアテにされて大怪我をした

人を見たそうです。

母親は実家がお金持ちだからこそ、無償という考えは嫌いだそうです。

『自分を優先に』

『物事には対価を』

力があれば人の為に使おうと思っただけでしたが、両親の話の話を聞くと納得しました。

両親は別に、「困っている人を見捨てる。」「私利私欲の為に使え。

」とは一言も言っていない。

プライドや奉仕では人間は生きていけません。

「まず自分を、余裕があれば他人を、そして対価を。」

この事を忘れずに、麻帆良に行こうと思います。

## 入寮（前書き）

改行とかで、投稿しなおしました。

## 入寮

ここ、『麻帆良学園』は幼等部から大学部まである学園都市です。大半の生徒は高等部まではエスカレーター式で進学出来るため、クラス替えというものが存在しない。

中等部から全寮制であり、二人で一部屋の部屋割りと同クラスの、仲の良い友人同士がということが殆どである。

では、自分の様に転入してきた場合はどうするか？

幾つか例があり、

1、何処かの部屋を3人部屋に移って貰い、そこに3人目として入寮する。

2、元々、1人部屋の所に入寮する。

3、何処かの空室に1人で入寮する。

この3つが一応、マニユアルらしい。

上から順に優先であり、1人部屋というのは人数が合わなくなった者や、あまり人付き合いが上手くない者が大半らしい。

結果として、自分は『2、元々、1人部屋の所に入寮する』となりました。

そしてルームメイトと顔をあわせたのですが、何とか好青年カッコイイです。

「やあ、よろしく！僕の名前は『赤木 聖人』（アカギ マサト）、マサツと呼んでくれ！慣れない所で分からない事もあるかもしれないけど、みんな良い人ばかりだから遠慮なく聞いてくれよ！」

「あ、これからよろしくお願いします、自分の名前は『有澤 裕』です。」

「じゃあ、ユウって呼ぶよ。荷物を置いたら寮の中を案内しようと思っただけど…」

赤木君：ではなく、マサの言葉が途切れました。

「…その、荷物ってソレだけ？」

視線は足元に置いてあるドラム缶バッグ2つ。

「ソレだけって、この2つですよ？」

殆どは服、後はケータイ。

「他のものは麻帆良に着いてから揃えようと思ってたので。」

最初はゲーム機や本等も持ってくるつもりだったんですけど、実際に纏めてみるとダンボール3箱になるので祖父母の家に置いてきました。

「とりあえず、服とタオルがあれば大丈夫です。」

そういつてバッグをベッド下に押し込み、辺りを見回します。

部屋の中は家具が一通り揃っており、特に買い足す事は無いかもしれません。

一週間が経ちました。

この一週間で、クラスメイトとも顔をあわせ、それなりにやっ

けそうです。

問題があるとすればルームメイトのマサですが、家事全般が致命的です。

食事は外食かレトルトか出前か、お惣菜オンリー、主食はカップ麺。掃除は燃えるゴミと燃えないゴミを別けられない状態。

洗濯は中に糊をいれる始末。

自分はこの体になってから、母親任せでしたので忘れていましたが、家事が出来ない人間というのはココまで酷い物かとおもいました。

初日、昼外食、夜出前。

二日目、朝弁当、昼外食、夜弁当。

三日目、朝レトルトカレー&レトルトご飯、昼外食、夜出前ピザ

マサはもしかして料理が出来ないのかと思い、冷蔵庫を開けると何も入ってません。

野菜室にはカップ麺が、冷凍室は製氷皿とアイスノン。

冷蔵庫の意味がありません。

米すらありません。

料理は自分の担当になりそうです、というより自分で作らないと病気になるいそうなので。

洗濯はTシャツと一緒に洗濯して貰えないかと頼んだのですが、マサは快諾してくれたので任せた所……Tシャツが硬くなって戻ってきました。

マサが言うには「パリッとのりがきいてるだろ!？」とのこと。

イジメかと思いました。本人もソレを着ているので洗濯の仕方を聞いたところ、『濯ぎの時にアイロン糊を入れた』と……配管が詰るんじゃないかと判断し、洗濯機の使い方とアイロン糊の使い方だ

けは覚えてもらいました。

掃除は、片付けられない人っぽいです。

ならば、ゴミの分別を頼んだところ、燃えるゴミと空缶に分けられてました。

燃えるゴミの中を見てみると、ペットボトルやプラゴミが入ってました。

マサが言うには「火を点ければ燃えるゴミ」だそうです。

とりあえず、燃えるゴミと燃えないゴミと資源ゴミを理解してもらいました。

四月半ば、麻帆良での生活に慣れてきました。

部活等を決める時期なので、マサを『お料理研究会』に入れようとしたのですが失敗しました。

とりあえず私は『さんぽ部』に入りました、理由としてはスポーツや格闘技系の部活は無意識に『強化』を行ってしまう時があることと、『汗を流して青春を謳歌しよう!』というのはガラではないので。

だらだらと、気の向くままに歩きます。

部活に入ってるクラスメイト達の話を知ると女子中等部1-Aの人間達がレベルが高いそうです。

名前を聞くと、原作のメンバー達でした。

特に自分が彼女等に関わる事も無いと思います、というより接点がないのです。

学校は校舎が違いますし、当然寮は男女別、部活も男女別に分かれている為、見かけたりする事はあっても会話なんて無いのです。まあ、自分としてはネギ先生云々より、学校生活を楽しみたいので静かに過ごしたいです。

六月末、夏っぽくなって暑いです。

この頃になると時間的な余裕も出来、休みがちだったトレーニングを再開します。

とはいえ、ここには魔法を使う連中がウロウロしているので目立たないようなモノになります。

『強化』をコントロールし気配を消したり、『探査』を繰り返したりします。

具体的には、気配を消してクラスメイトを驚かせたり、部活中にはぐれたりした場合に何所にいるかを探ったりしています。

ついでに言うと学園側にバレました。

図書室で試験に向けて勉強していたのですが、つい眠ってしまい鍵を閉めに来た新田先生に起こされました、「あまり無理をしない様に。」のお言葉付きで。

時計を見ると23:00、熟睡してたようです。

駅に着いたのですが電車は出たばかりで暫く来ないらしいです。

二駅程度なら24:00頃には寮に着ける筈、ならば『さんぽ部』らしく歩く事にしました。

歩かなければバレなかったのに。

寮を目指して歩いていたらどこも何となく、『探査』をしたところナ  
ニカが複数近付いてくるのを感じ。

「って、ナニカって何？」

そう呟いた瞬間、目の前に蜘蛛らしきモノが降ってきた。

見た目は蜘蛛なんだけど大きさが……軽トラ位あるのは蜘蛛じゃない。

蜘蛛の形した化け物なんだろうけど……気持ち悪っ！

「……どうしようっ？」

こつちを見たまま巨大な蜘蛛は動こうとしないので、『強化』を行  
いゆっくりと後退していく。

「……………」

二歩目を下がった時、真横から衝撃。

「おあっ!?!」

何かと思えば座布団くらいのサイズの蜘蛛が飛び掛って来ていた。

『強化』しているのどうってことは無いのだけど、気持ち悪さは  
軽減できない。

「なんてB級映画ですかっ、コレは!?!」

至近距離で『どどん波』を撃ち込む。

破裂するような音がして、座布団蜘蛛はバラバラになった。

もうロイツ等は敵だ、間違いない。

「じゃ、まあ……行きますかっ！」

入寮（後書き）

『赤木 聖人』：生活能力無しをイメージ

『有澤 裕』：さつき気付いたんだけど、主人公の名前を隆文にすれば良かった……

## 初戦闘と普通の魔法使い

有澤 裕

はい、『有澤 裕』です。

巨大な蜘蛛は殆ど動いていません、というか放置しておきます。

『どどん波』を撃ち込みましたが弾かれました、というか硬そうです。

接近しないと有効打はあてられそうにありません。

代わりに座布団蜘蛛はやたらいます。

何匹倒したか数えてません、多すぎます。

『強化』があるので肉体的ダメージはないんですが、気持ち悪くて仕方が無いです。

『どどん波』を使うと弾けるわ『ナイフ』だと中身が見えるわけで、視覚的には大ダメージです。

踏み潰したりすると「ぷちぷきゃっ!!」とか音がするので聴覚的にも勘弁して下さい。

というか、麻帆良の『正義の味方(笑)』は何をしているのでしょうか？

自分の住む寮までは1kmちょっと、そんな場所にこんな化物がいると言っているのに。

飛び掛ってきたのを『ナイフ』で切り捨てながら『探査』を最大まで拡げてみる。

彼方此方で消えたり出たりしている所をみると、戦闘中らしい。

あれ、何でこっちの方に誰も来ないんですか？

すぐそこに人が住んでる寮があるんですよ？

もしかして頭数に入れられてる？

もしくは餌、囿？

「　　っ！！！」

冗談じゃない、一気に決めよう。

『強化』の出力を高めつつ凝縮させる。

その時は動きが止まってしまふ為、座布団蜘蛛達は群がってくる。脚で掴もうとするヤツ、糸を吹き付けているヤツ、噛み付こうとするヤツ。

『探査』を使い、座布団蜘蛛を確認する。

座布団蜘蛛は全部自分の所にいる、この感覚だと外見は蜘蛛の塊、蜘蛛の玉みたいな状態だろう。

『強化』を最大まで高め、限界まで凝縮する。

「気持ち悪いんだよ。」

そして一度に『放出』する。

目に映るのは引き千切られた座布団蜘蛛の死体、そして微動だにしない巨大蜘蛛、立ち尽くすシスター二名。

「え？シスター？」

謎のシスター1号改め、春日美空

今夜はやたら数が多いっすよ、鬼やら何やらがウジャウジャと。

アタシなんかが真っ向勝負しても勝ち目なんて無いんで、いつも通りに牽制と攪乱に徹してるっす。

頭上のココネの指示に従ってアーティファクトで全力で走って、

魔法の矢』を撃ち込む、でまた走る。

正直ソレしかできねっすよ。

なんかスゴイ魔法が使える訳でもないし、治療だって救急箱程度っすからね。

魔法使いのおちこぼれ？別に気にしてないっすから……ホントっすよ！？

お、また1匹逝ったね、シスター・シャークティのボディブローで。

うん、絶対にアレはシスターの戦い方じゃないと思う、少なくとも十字架を握り込んでボディブローを打つのは違っつて……うわ、こっち向いた！？

「美空！」

「な、何スか、真面目にやってるっすよ？」

「念話が入りました！応援に向かいなさい！」

「応援？」

まあ、応援つてアタシなんか行ってもねえ、役に立ちやしないっすよ？

「防衛線を抜けたのがいるそつです！」

そつ言いながら、また1匹。

「男子寮に向かって……え？」

「ど、どしたんすか？」

「応援じゃありません、救助です、救助に向かいなさい……！」

「きゅ、救助つすか!?!」

「現場の確認、足止めが理想ですが防衛線を放棄しても構いません、巻き込まれている一般人を確保し離脱なさい!?!」

シスター・シャークティの話だと、とある男子寮の近くで戦闘が行われてるらしい。

魔法生徒かと思えば今夜出ている魔法生徒は全員持ち場にいるらしい。

恐らく一般人、最悪もう手遅れかもしれないが。

「わ、わかりましたーっ!! かそくそーっち!!!」

現場に着いてアタシが見たのは街灯に照らされた蜘蛛の死体。

それと車くらいはありそうな巨大蜘蛛と蜘蛛の塊っすね。

巨大蜘蛛は動かない、しかし蜘蛛の塊は動いてい…いや、蠢いているっす。

ギチギチと耳障りな音がして、気持ち悪いっす。

いや、まて一般人は?

幸い、アイツらはアタシに気付いていない、念のため幻術を使い姿を隠し音を立てずに辺りを捜す。

……あつた。

巨大蜘蛛の手前に街灯に照らされた鞆。

持ち主は?

逃げれたっすかね?

「(ミノラ。)」

「(何すかココネ?)」

「(……アソコ。)」

ココネが指差してるのは蜘蛛の塊。

ああ、終わったっすね。

「(…逃げるっすよ)」

「(…ウン)」

撤収しようとした、その時。

「気持ち悪いんだよ。」

「(へ?)」

「(エ?)」

蜘蛛の塊が吹き飛んだ。

とつさにココネを抱えて簡易障壁を張る、今までで一番の展開速度  
っす。

飛んで来た蜘蛛の残骸が障壁に当たって潰れていく、気持ち悪っ！  
10秒程度だろうか、衝撃が収まり私達は蜘蛛の塊があった場所に  
目を向けた。  
人がいたっす。

一般人ではなかったのか？

ケガは？

ココネは無事？

蜘蛛は？

誰、この人？

そんな事を考えていたら

「え？シスター？」

第一声は間抜けな声だった。

初戦闘と普通の魔法使い（後書き）

美空の喋りが難しい。

戦闘終了……（前書き）

原作ってまだ続いてたんだw

誤字脱字あったらお願いします。

戦闘終了……

有澤 裕

座布団蜘蛛達を『強化』 + 『凝縮』 + 『放出』で吹き飛ばしたら、何故かシスター大小がいきました。

「え？シスター？」

何故こんなところに？

てか誰だ？

色々と聞きたい事がありました。まだ巨大蜘蛛が残っています。シスター大小はおいといて、巨大蜘蛛に向き合います。

シスター大小も巨大蜘蛛を確認したらしく、顔を見合わせて頷き合うつと巨大蜘蛛に仕掛けました。

シスター大小からビームが、自分もエネルギー波を撃ち込みます。

「魔法の射手！！」 「オラアツ！！」

動かない巨大蜘蛛に着弾、爆発。

煙が晴れた後には何も残ってはいません。

恐らく、消し飛んだか還ったかしたのでしょう。

シスター大小も同様に判断したらしく、ガッツポーズとってます。

お礼位は言わなきゃと思い近付いたら、一転して世界が終わった様な顔をしています。

「あー、ありがとうございます、助けてもらっちゃって。」

この時のシスター大小の顔はスゴイ顔をしてました。

その後、とりあえず責任者の所についてことでシスター大小の後を着いて行きます。

道中、自己紹介をして分かったことは、シスター大は同学年の『春日 美空』という名前で、原作のクラスにいた人でした、多分。原作に出てくる人全部を覚えているワケではないので。

シスター小は『ココネ』だそうです、正直何考えているのか分かりません。

コッチをジト目で睨んできます、目付きが悪いだけかもしれませんが。

「怪我、してる。痛くないの?」

……おぉ!

自分の体のアチコチに擦傷があつた為、ソレを見ていた様でした。酷い怪我ではないので、歩きながらですが『春日さん』に治癒魔法を掛けて貰いました。

「いやあ、本当にありがとうございます。地味に痛かったんですよ。」  
魔法つてやつぱり便利だなあ、擦傷程度ならすぐ治せるなんて。

「いやー、大した事ねっすよ？他の人達はもっとスゴイの使えますし。」

凄いの使えても寮の近くまで接近されてるんじゃないなあ。

「そんな事ないですよ、此処で治せるのは『春日さん』だけですから。他の人達がどんな凄いの使えても、今此処での治療はできないでしょうし。」

自分が大怪我してるとは想定してないんですかね、正義の味方（笑）達は。

「うえ、あ、ええと、あ、アハハ……」

自分が敵だったり、困ったりした場合どうするんでしょうかね？

「助けてくれて、ありがとう！」

来てくれた『春日さん』には本当に感謝ですよ、一人じゃ結構ツラ

かったし、精神的に。

「え、え、ああ…き、気にしなくていいっすよ、うん！」

シスター小…いや、『ココネさん』がこっち見てる、何でしょう？

「何で此处にいたの？」

あー、やっぱり説明しなきゃ駄目ですよ。

「え？ああ、実はですね…」

これって学園長室で同じ事言わなきゃいけないのかなー。

春日 美空

現場に着いて要救助者は手遅れと判断して撤収しようとしたら、突

然蜘蛛の塊が吹き飛んで中から男の人が出てきた……何だコノ人、親玉っすか？

「え？シスター？」

シスターっすよ……じゃねーっすよ！

ヤベーっすよ！

マジヤベーっすよ！！

親玉だしたらアタシ達に勝ち目が無いっす！

それにまだ、デカイ蜘蛛が残ってるし……全力で逃げれば何とかなる……かな。

親玉相手に勝てる訳が無いので、ココネと顔を見合わせてデカイ蜘蛛に攻撃を仕掛けるっす。

「魔法の射手！！」

こんなモノで倒せるなんて思っちゃいないっすから、怯んでくれればその隙に全力で離脱するっすよ！

親玉の方にもブチ込んでくっすかねーって……

「オラアツ！！」

うえーなんだアレ！？

手からビーム出てるっすよって、うわアタシ達死んだーっ！！

あー、シスターシャークティ、ゴメンナサイ。

割った花瓶は教会の裏に埋めました、物置の掃除がメンドくさいので鍵穴に接着剤を流し込みました、窓拭きがダルいのでホースで水かけて終わらせました、聖書をカップ麺の重石に使いました、台所

のワインを勝手に飲んだのはココネですアタシじゃありません…っ  
てアレ？

…生きてる？

自分の手を握ったり開いたりして確認っす、うん生きてる。

よっしゃー！生きてる！神様アリガトー！！  
思わずガッツポーズをとってしまうアタシ達。

気付けばデカイ蜘蛛もないし、報告すれば終わりっすね。

ザリ……

…ああ、忘れてたっす。

ザリ…

親玉が残ってたっすよ、終わりなのはアタシ達っすね。

ザッ

覚悟を決め……

「あー、ありがとっございます、助けてもらっちゃって。」

……アレ？

近くで見る親玉は、申し訳なさそうに笑っていた。

その後、シスターシャーケティに念話で報告すると学園長の所に連れて行くようにすることで後を着いてきて貰ってるっす。

道中、自己紹介をして分かったことは親玉じゃなかったっす。

『有澤 裕』という名前、同学年らしいっすね、麻帆良男の。

しかし『有澤 裕』。

どっかで聞いた事があるような？

考え込みながらココネを見ると、『有澤 裕』のコトをジッと見つめてるっすよ、惚れたっすか？

「怪我、してる。痛くないの？」

……おお！？

よく見ると彼の体のアチコチに擦傷があったから、ソレを見てたみたいっすね。

ついでに制服も所々破れてるっすケド。

酷い怪我じゃないし、コレくらいなら歩きながらも治せるんで治癒魔法を掛けりゃいいっすかね。

「いやあ、本当にありがとうございます。地味に痛かったんですよ。」  
毒とかで無ければいいですケド。

「いやー、大した事ねっすよ？他の人達はもっとスゴイの使えますし。」

所詮、救急箱程度っすからね。

「そんな事ないですよ、此処で治せるのは『春日さん』だけですから。他の人達がどんな凄いのを使えても、今此処での治療はできないでしょうし。」

へ？褒められた？

「うえ、あ、ええと、あ、アハハ……」

魔法使って褒められたのって久し振り……？

「助けてくれて、ありがとうございます！」

なんかスゴイ嬉しいっすね、あれ？

え、ウソ、顔がなんか熱いっすよ。

ヤバイ、絶対、顔が真っ赤だ。

暗いから判んないかもしれないケド。

「え、え、ああ……き、気にしなくていいっすよ、うん……」

言葉が出ないっす……。

な、なにを言おう、えーと……

「何で此処にいたの？」

ココネ、ぐっじよぶ!!

そうだ、ソレ聞かないと!!

「え？ああ、実はですね……」

学園長室に着くまでが、なんか楽しかったっす。

戦闘終了……（後書き）

美空とココネのスゴイ顔は想像にお任せしますw

『強化』 + 『凝縮』 + 『放出』はACFAのアサルトアーマーが参考です。

当然、放出直後は無防備ですよ、強化のやり直しです。

押入れにPS2のネギまのゲームがあつたのでやってみただけ。

生徒が密集しているところに誤魔化しようのない魔法（攻撃魔法）をぶち込むコトができるのって……気持ちいいw

なんていうか「秘匿ってナニ？」って感じでww

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2584o/>

---

元一般人が転生

2010年10月31日01時56分発行